舎うらゝ。伊丹親興、二百余騎ゝて。兵庫表へ出て発。兵庫神崎の町へ火を放て敵
大ゝ焼起てそゝ（山陰山陽の諸将いづれもうち連て。新公方家ゝ御将佐
ゝ）砂塵を流しを流させ〜〜ゝ形地這地ゝ對敵守りしこと好方の城を俯
不復を出して實否を探るゝ。猶ゝも海上数百の艦艦西宮尼崎の潮路ゝ擬
連て。西國方の旗幟。数ゝ多く建翻〜。漸々寄集ひ〜〜。仏の百姓ども討ら
きたと注進せるゝこと好の個〜方御ゝ〜〜て悃果。和ゝ信長猛火の像〜。
うしろゝ西國加勢の大軍。怒潮とゝりて充満せり。此朝ゝ隙〜大切なるゝ四國
へ渡る通路ゝ。備塞ぎをゝいゝたべき。急もゝを本國ゝ率退き。海て軍
せんのと臆病風ゝ吹起らゝ。篠原右京進小浦水の城を逸速〜富田の善門寺へ
地来り。細川真之こと好長治ゝ對面〜。方僅將軍義栄君ゝ御膳物の御悩
日々ゝ重らせ玉ふゝ。歓東西より進来たべ中ゝて御名残ゝ至治りゝ

たまはじ。所時もそやく阿波の國へ御下向あり。御心ゝづろゝ御保養の縛ま
〜まさべ強るべ〜と諫るゝ。若ゝ實ゝもと同心ゝ〜。當日已の刻過る頃進十
備深區ゝ雑調つ。御船ゝ義栄君を扶奉て。細川真之こと姫長治
供奉〜まゝらせ所の列を當て出帆せり。篠原右京ゝ駆馬ゝて。諸所の自軍へ
這事を告知せるゝ。芥川城をこと好日向守長綱も。用捨せんと来く
を。岩成主税助こを制〜。急く力を添るとゝ。ゝ。所容ゝて。松ゝうちゝ。
本國所の列へ退散せり。斯る所へ注伸あり。高槻の城を入ゝ左を大や既ゝ信長へ
降参ゝ。生隊の名を魁として。芥川へ推進る。御要心ゝと告るを所。岩成大ひゝ怒
報ゝ〜。独ゝ自戦孤隊ゝ。恰ゝ防戦せゝ。と敵進来るを後葛〜ゝ。風
説のこゝ。ゝてそうゝ。豊ゝ去ゝ本下ゝ謀ゝ。まゝ拵ゝの國民を懐けゝ。と
信長を勧めて。仁恩厚く布施せらるゝ。今までこと好ゝ昔改ゝ悔を遂ゝ苦し